



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 天界 1942, 22(258)

ISSUE DATE:

1942-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168485>

RIGHT:

天 界

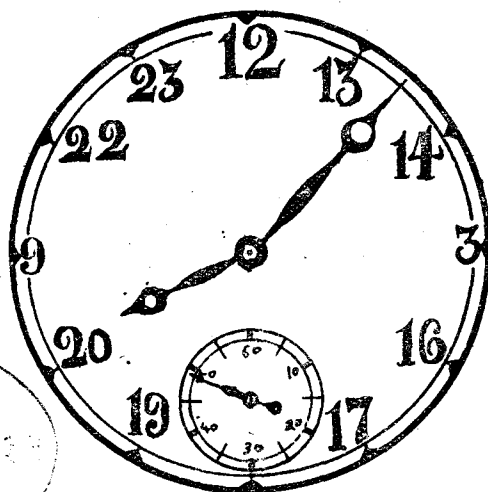
(第 22 卷)

第 2 5 8 號

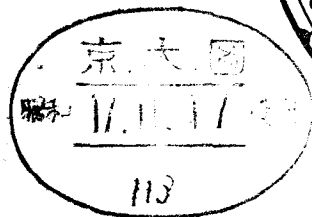
昭和17年第12號

24時制の時計の文字盤

應募案 No. 4



(福岡 梶原明仁)



本部：田上天文臺 東 亞 天 文 協 會 事務局：滋賀縣 堅 田

1942年

十二月の天象 (時刻は日本標準時)

Heavens of Decembe .

年末の十二月は、いよ々々冬の星空で、“牛”や“オリオン”等に率ゐられた夥しい輝星の群れが、日没と共に、頭上へ現れて来る時である。季節は寒いと言つても、まだ々々大したことは無い。況んや、臺灣や、フィリピン、ボルネオあたりは、徹宵して星を楽しむ良い時期である。

太陽は“蝸”から“蛇遣ひ”あたりを順行し、南緯は低い。季節から言へば、8日が大雪、22日が冬至であるから、此の頃が最も晝夜不平均の時である。北緯 60° 以北では殆んど日の目を見ず、その代り、南緯 60° 以南では夜間の無い“白夜”の24時間を送り迎へることとなる。

月は1日に下弦となり、次いで8日が新月、23日が満月、それから月末の31日が再び下弦である。新年の鐘の音が鳴りひびく頃、月は西に傾く姿勢にある。

水星は1日に外合となり、月末まで引きつづいて宵の星であるが、太陽に近くて見えない。13日には金星と 1° 余りの近くに近づくが、之も見えない現象である。

金星も亦十一月中頃に外合したばかりで、宵の星ではあるが、今月も尚ほ太陽の背後にあるため、ごく特殊な目的の観測以外には不可能の星である。

火星は日出前の東々南の低い空にチラと顔を出し始めたけれど、距離も遠いし、光度も微弱で、興味をそゝらない。

木星は頗る好い位置に登場して来た。毎夜、日没の後に2~3時間もすると可なり高く東の空に君臨して、其の巨光を放ち、大小各種の望遠鏡の持ち主を歓迎する。四つの衛星は其の左右に亂舞し、主星に對して、蝕や、掩蔽や、通過等の現象を飽きるまで見せてくれる。詳細は年鑑(天界第247號 第27頁を見られよ。

土星は2日に對衝となり、光度は -2 級、地球からの距離は8單位余、即ち13億キロ。美しい輪の幅も $26''$ を超え、壯觀を呈する。

天王星も、土星と並んで、牛座にある。觀望に好いが、年鑑20頁の星圖が必要であることを忘れてはならない。

海王星も、日出前の東天に高い。

流星は、上旬から中旬へかけての双子座群が、月に妨げられないで、觀測に宜い。

黃道光も終夜見える時で、黃道帶も、1922年以來のものが現はれる豫想である。

會員に關する報告

〔入會者〕	植田耕作(大阪)	林岡憲亮(大阪)
青木進(東京)	宮永吉(東京)	長岡章(岡山)
廣田正雄(函館)	近藤福之助(京都)	石井邦雄(川崎)
野末源一(松江)	大塚秀雄(神奈川)	浦田正富(平壤)
〔觀測部入部〕	工藤晶三(東京)	野末源一(松江)
浦田正富(平壤)	植田耕作(大阪)	
〔逝去〕	竹谷實(兵庫)	

(注意) 御移轉の節には直ちに(前住所をも並記して)御通知下さい。
觀測部(へ入部)の方は其旨附記して下さい。

昭和17年分會費部費領收者芳名

會費	加藤祐成(名古屋)	樋口寅治郎(川崎)
尾高正敏(大阪)	佐々木勝(愛媛)	山岡清(和歌山)
塚田豐治(札幌)	林稻太郎(長野)	笠井泰雄(京都)
堀幸一(敦賀)		
會費(一部完納)	長岡章(岡山)	小林義惠(東京)
近藤福之助(京都)	廣田正雄(函館)	小石井邦雄(川崎)
植田耕作(大阪)	野末源一(松江)	遠山孝子(仙臺)
浦田正富(平壤)	小田孝男(堺)	鈴木共富(愛知)
部費	笠井泰雄(京都)	
部費(一部完納)	小林義惠(東京)	植田耕作(大阪)
浦田正富(平壤)		

昭和18年分會費領收者芳名

會費 (4圓80錢) 横井糸吉(東京) 林克己(廣島)

(順序不同) (領收通知に代ふ) (1942—9—30締切)

本 號 要 目

表紙畫: 24時制の時計の文字盤 No. 4 (梶原明仁)

口繪寫真: 1941年十月の火星スケチ (6)

巻頭隨筆: 水原氏のことなど 山本一清 383

宇宙の年齢 (2) H.N. ラッセル 386

大遊星の離心率について(遺稿) [紀要78] 故三輪一郎 391

文化14年十一月の隕石 瀧口宏 395

黒點觀測第四回報告 大石辰次 398

天界正誤表 403

昭和18年=學曆1943年 404

標準天文用語表 (12) 406

學者が忘れてゐる星座 (4) 山本一清 408

新刊紹介: 「星を見つめる人」 山本一清 413

觀測部月報: 彗星・流星・太陽 415

會員よりのたより 418

たてぐみ: 牛座あたりの妖雲 山本一清(387)

問答 (2件) 397, 412

1942年十二月の天象 表紙 第2頁

昭和18年分の會費と部費

會費 本會の原動力たる會費は、本會規則第6條にもあります如く、前納されて初めて、本會が經營維持出来る制度であります點を御了解下され、此際會員各位の御協力を得て、一層收入の確實を期し度く存じます。何卒この事を御諒承の上、會員にして昭和17年分會費又は追加額の未納の方は勿論のこと、昭和18年分會費及び部費の納入を勵行して頂き度く、切に希望する次第であります。念の爲め：——昭和17年分改正會費は 年額 4圓30錢 です。

(追加額30錢 未納の方は至急お送り下さい)

なほ 昭和18年分會費 は 年額 4圓80錢 です。

應召會員は會費免除 應召又は從軍される場合は直に其旨御申出下さい。

觀測部費 (急報購讀料)

東亞天文協會急報 (不定期、但し 毎月數回發行) 實費 年額2圓40錢 本會々費を 加算して 7圓20錢

御拂込について 從來會費を頂く場合は御事情により集金郵便を差し上げてゐた向きもありましたが、御承知の如く、現在は「集金郵便」の取扱ひが「中止」されてをりますので、今後は御面倒でも是非とも振替 (或は小爲替) をもつて御拂込を願はねばなりません。「會費切」の通知を差上げました時は直に御送金下さい。なほ本會の振替貯金番號は大阪56765 (東亞天文協會) です。

東亞天文協會經理部

アルミニウム鍍金

天 體 用 反 射 鏡
鍍 金 品 目：レフ式カメラ反射鏡
理 化 學 器 械 用 反 射 鏡
其 他 御 需 め に 應 ず

反射望遠寫真鏡 “カンコー”

製 作 元 關 西 光 學 研 究 所

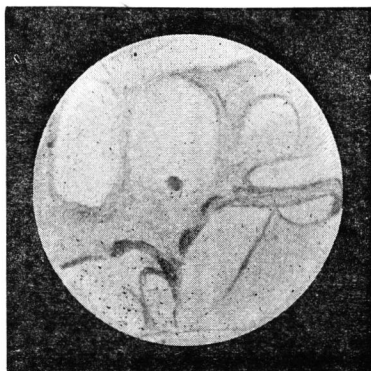
京 都 山 科 御 陵
電 話 山 科 5 7 番

1941年十月の火星スケチ (6)

Sketches of the Mars, October, 1941.

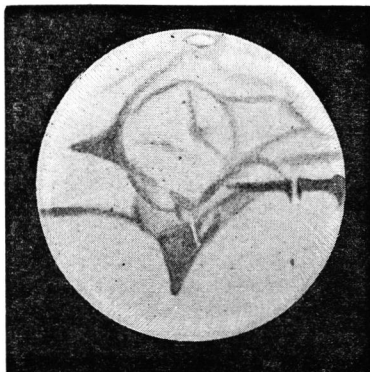
(31)

富田弘一郎氏
H. I.



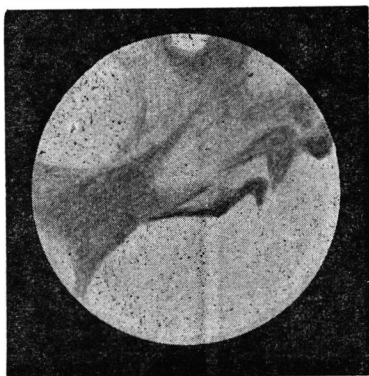
(32)

中野繁氏
N.



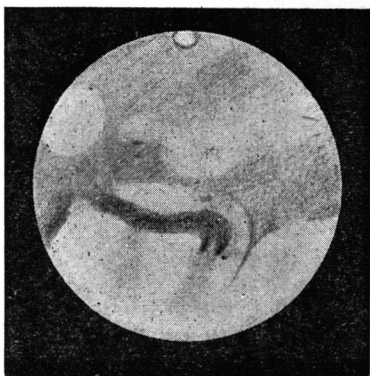
(33)

頼武揚氏
R.



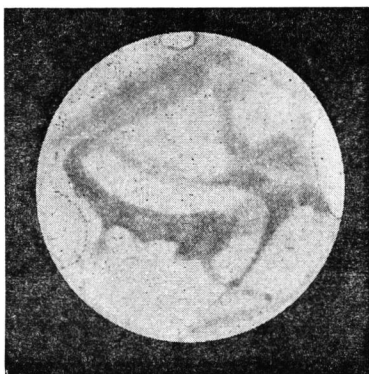
(34)

村山定男氏
S.M.



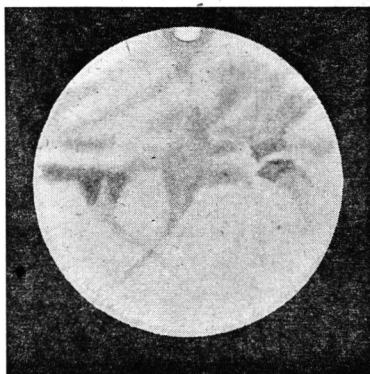
(35)

渡邊恒夫氏
W.



(36)

坂上務氏
S.



(31) Oct. 19, 19^h20^m. $\omega = 301^\circ$

(33) Oct. 21, 23^h30^m, $\omega = 346^\circ$

(35) Oct. 23, 2^h00^m, $\omega = 12^\circ$

(32) Oct. 21, 22^h05^m. $\omega = 319^\circ$

(34) Oct. 16, 21^h10^m. $\omega = 350^\circ$

(36) Oct. 17, 23^h00^m. $\omega = 42^\circ$

(1941, J. C. T.)

東亞天文協會

—大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名—

會長	山本一清	(滋賀縣草津町大路井420; 同栗太郡上田上村桐生)
副會長	宮森作造	小嶺孝二郎
理事	宮森作造	觀測部長 木邊成麿
專務理事	中村覺	經理部長 宇野良雄
教育部長	高城武夫	事業部長 大口周作
報導部長	山本一清	理事(無任所) 美田爲三

本部所在地	田上天文臺	滋賀縣栗太郡上田上村桐生
事務局所在地	滋賀縣堅田局區內	
經營する天文台	倉敷天文台	岡山縣倉敷市
大阪支部所在地	大阪市電氣科學館	プラネタリウム (大阪市西區四ツ橋)
臺灣支部	臺北市公會堂內	
黃道光觀測所	廣島縣沼隈郡瀬戸村	

東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小嶺孝二郎, 幹事 宇野良雄)
 2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
 3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
 4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
 5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 本田 實)
 6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
 7. 機械課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村木部 木邊成麿)
 8. 寫真課 (課長 大津市鹿岡町 堀井政三)
 9. 遊星圖課 (課長 伊達英太郎, 幹事 佐伯恒夫, 木邊成麿)
- 火星班 (班長 兵庫縣川邊郡雲雀丘川西局區內 伊達英太郎)
 木星土星班 (班長 大阪市西區四ツ橋畔 電氣科學館 佐伯恒夫)
 水星金星班 (班長 木邊成麿)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
 11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
 12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第2條, 第3條, 第6條 (略)
- 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事ガ出來ル。
- 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文^{プレテン}, 東亞天文協會會報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

天界 第258號 昭和17年10月28日印刷 昭和17年11月1日發行 (定價金40錢) 送料金1錢

編輯兼發行者 滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513

東亞天文協會 (振替大阪56765)
(代表者山本一清)
(日本出版文化協會第2種會員(第220038番))發行所 同上
印刷所 京都市上京區上樺木町千本東入眞美印刷所 [電西陣3702]
印刷者 同上

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

橋本岩太郎
日本出版配給株式會社